

アルカリ電池部品：中国輸出の小名浜港利用

Alkaline Storage Battery Components: Using Onahama Port for Exports to China

1. 背景

国土交通省発表の港湾整備における投資の重点化（重点港湾）政策に対して、福島県では小名浜港が選ばれました。小名浜港では、現在港内の人口島に5万トンクラスの船が着岸可能な岸壁の整備事業を進めています。2014年度の供用開始後は、第2、第3の岸壁整備の計画もあり、今後の地域（いわき市）経済発展が期待されています。

地元の小名浜港利用を促進するにあたりメリットとデメリットについての調査を実施しました。

弊社では、中華人民共和国（中国）の青島にある亞通達鉄路有限公司（亜通達）とメンテナンス性を向上させた鉄道車両用蓄電池の技術援助契約を締結しています。従来はその部品を弊社いわき事業所（福島県）から横浜港まで陸送し中国に輸出していましたが、地元小名浜港を利用する事により、国内輸送費のコストダウンが可能となりました。また、デメリットとして船便の運送日数がかかる事でしたが、亞通達との調整により、運送リードタイムを加味した発注とすることで合意し、デメリットを解決させました。更に、コンテナの積載効率をUPさせるために梱包材の見直しも実施し、従来比約1.5倍の積載量が可能となりました。

2. まとめ

今後も地元港湾を積極的に利用し、地域社会に貢献していけるように進めます。



（アルカリ電池部 鈴木孝光・石崎勝美）